

日本列島早いところでは梅雨入りしました。
これから暑い夏に向けスタミナをつけ、夏バテしないように体力づくりをしましょう。
食事は勿論のこと適度な運動睡眠をしっかりと少しずつ体を慣らしていきましょう。

暑熱純化という言葉が聞かれたことはありますか？

今まさにこの梅雨の時期から体調を整え慣らしていくことを言います。

汗もいっぱいかき、気持ちよくお過ごしくださいね。

さて矯正について数回書きましたが、丁度この時期お子様をお持ちのご家庭では学校から健診のお知らせが届くころかと思います。

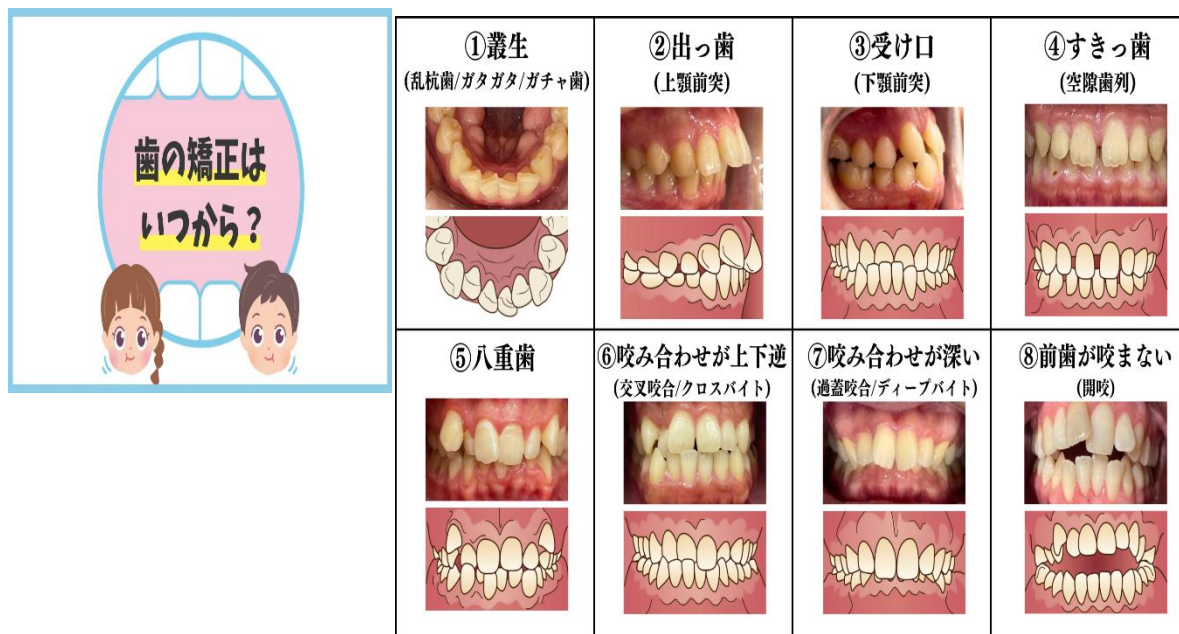
お知らせをきっかけに受診へとつながればうれしいです。

今回歯っぴいらいふは、お知らせに基づき書かせていただきます。

子どもの歯並びやかみ合わせが悪いと思ったら早めに受診が必要？

歯科医は乳歯列期のお子様を診るとき、今現在の状況が将来の永久歯の歯並びを思い歯並びを悪くしている原因、顎の成長にまで考えに入れ、診断し、もう少し大きくなるまで待ったほうがいいのか、早く矯正をしたほうがいいのかを診断します
基本的にどうせ生え変わる乳歯だからと放っておかずに、気になることがあれば矯正歯科医に相談することをお勧めします。

それがやがて永久歯になったときに不正咬合の予防へとつながることでしょう。



学校健診で不正咬合と指摘があった場合

まずは相談してください。

なぜなら定期的な観察や必要な場合は治療を検討しなくてはならないからです。子どもたちの虫歯の早期発見のため学校健診が行われていましたが、平成7年から学校保健法の改正により不正咬合と顎関節のチェック項目が加わりました。虫歯、歯肉炎、歯周病、不正咬合、顎関節へと広がってきているのです。小学校で指摘される咬合にはどんなものがあるのか…

反対咬合

上顎前突

開咬

叢生

正中離開

その他

学校健診でチェックされた不正咬合は0, 1, 2, 3段階で評価されます。受診の勧めがあればかかりつけ歯科医に診てもらいましょう。



成長発育を利用し、あるいは抑制し治療をすることがあります。

小学生という段階で早期治療で重要視するのは丁度成長発育の盛んな時期に当たるので、その成長を上手に利用したり、反対に抑制したりしながら、矯正装置の力で歯を的確に動かすことができるのです。

例えば顎の成長発育には上顎のほうがした顎よりも早く大きくなり、早く成長が完成します。

このことから顎の成長と深く関わるような受け口の治療は行って、上顎が発育しやすい環境を整える必要があり、出っ歯という状態では、小学生の頃なら上顎の成長発育を抑えながら下顎の前方への発育を促すという術式になります。

このようなことから、タイミングで効果的治療が行えるわけです。
学校健診での指摘がは前向きに考えていただき、お子様の長い一生を支える歯について大切な指摘をされたと考えてください。

治療するかどうかは本人、保護者様の判断となります

通常矯正治療に健康保険は適用されません。

治療に対しては経済的負担も問題になることもあり、保護者の判断になるケースも多いと思われます。

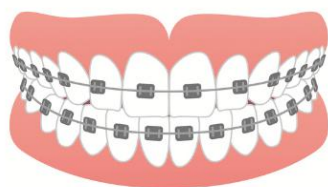
早いうちからの早期治療にはそれなりの意味もあるので、ぜひ理解しておき検討されることをお勧めします。

最近では見た目の矯正をする人も増えてきていて、時代も変わってきたなと思います。

また医療は日々進化することでしょうし、あなたに最も寄り添った治療をしてくれる歯科医を探すことが成功への重要なポイントとなるでしょう。



歯列矯正の種類



メタルブラケット



マウスピース

次回の歯っぴらいふもどうぞお楽しみにしてください。

歯科衛生士 栩木 誠子